

2. 京都市雲ヶ畑波多野家文書 調査・成果報告会

有賀 陽平

1. 波多野家文書調査

昨年度に引き続き、京都市北区雲ヶ畑の波多野家文書の調査をおこなった。本年度は、京都御猟場関連文書など近代文書の撮影と文書目録の見直しが調査の中心であった。本史料群内には、岩屋山志明院をはじめとした京郊山村の寺院・聖地に関する文書が数多く存在するため、科学研究費補助金（基盤研究（B））「聖地・霊場の成立についての分野横断的比較研究」（研究代表：菱田哲郎、JSPS KAKENHI 18H00741）の一環として調査を進めた。文書目録の記述統一、文書番号の再編の結果、現時点での総点数は 1774 点である。調査成果については 2020 年 3 月、京都府立大学文化遺産叢書第 19 集『京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告』として刊行した。

2. 京都洛北ライオンズクラブ例会での成果報告会

2019 年 3 月 13 日、京都洛北ライオンズクラブの例会において、成果報告会をおこなった。報告者と題目は以下の通りである。

- ①有賀陽平（博士前期課程）「雲ヶ畑の近世史料からみる御所への菖蒲献上」
- ②東 昇（教員）「明治大正期の雲ヶ畑における宮内省御猟場」

なお京都洛北ライオンズクラブからは、アクティビティの一環として、本調査に対して支援を受けている。この度のご支援に対し、改めて御礼申し上げたい。

3. 雲ヶ畑での成果報告会

雲ヶ畑地区では、本調査のみではなく、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究」（研究代表：上杉和央）による活動もおこなっている。その成果報告も兼ね、2019 年 11 月 24 日に雲ヶ畑小学校・雲ヶ畑中学校において、「地域の資料と雲ヶ畑の歴史」と題する現地報告会を歴史学科と京都府立大学



写真 1 雲ヶ畑現地報告会の様子

京都地域未来創造センターの共催でおこなった（写真1）。開催にあたっては京都洛北ライオンズクラブの協力も得た。

当日は、「波多野家文書」、「旧雲ヶ畑村役場文書」などから明らかになった雲ヶ畑の歴史について、近世と近代の各分野から報告をおこなった。また、近代以降の写真資料を用いた報告もおこなわれ、各写真について、住民の方々から、当時の集落内や行事の様子や青年団などの組織について多くの情報が寄せられた。当日の報告者と題目は以下の通りである。

- ①有賀陽平 「近世の雲ヶ畑と天皇」
 - ②東 昇 「明治大正期の雲ヶ畑の宮内省御猟場」
 - ③中村 治（大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授） 「写真で見る雲ヶ畑の変化」
- 司会 上杉和央（教員）

また、本年度の成果として作成したチラシを報告会にて配布した(図1)。「地域の資料と雲ヶ畑の歴史」、「地域資料の整理（旧雲ヶ畑村役場文書）」というテーマのもと、地域資料や調査の内容をわかりやすく紹介した。



図1 雲ヶ畑の歴史を紹介したチラシ